文化七年ヨリ十四年ニ
國貞
よと
ぶ
文化七年
全六冊
宗傳作
國自
岩戸
へ13
2378
5

文化八未の年清夏清月

遠15
2378
5

瀧に時鳥

ふきまろうそをうつうと思ふそよかせよ
まことのたましいれる我身哉

横笛

きくまろうそを我うつみとゐひしゝみ
まるれたるみいろそうれゝゝ

山東京傳作
歌川國貞画
榮林堂板

滝口左衛門
横笛姫

咲替花之二番目

全部六冊

序

江戸横山町二丁目 岩戸屋喜三郎梓行

西寺の老鼠へ。袈裟衣をくらひ。三井の怪鼠へ。経巻をやぶる。鼠喰も置主の損ゆへ。ゆゑ昔語。こゝへ滝口横笛ゑ。雨鉦塚をうつまでて。月日の鼠箕ことし。の秋うら来る春のまうけをくる箕盤へ鼠が笑みといふ。常言よひやしゝ。ゆる屋

文化七年庚午七月草稿了
八年辛未春新繪草紙

山東京傳誌

軽々舞
汗微沾
袖細く歌声
欲繞梁
明治
虫喰
浮世
又兵衛
筆
花見之
繪
縮圖

人の心も
真室
ぬり絵の
武者やらかの
真角

鈴鹿山　梵字丸ゞ一子

天竺冠者　竜夜叉

雨舞塚

○雨舞塚
西寺の
嵐
阿闍梨

近江
志賀の
山里の
狩人

天竺二
徳兵衛

其角

かびとりの
仁王や

新
滝口左衛門
時頼
宗因
近江国
甲賀三郎
金春息女
横笛姫

○甲賀家臣
望月
志賀之助
○志賀之助
妹
柴之戸
猫の
恋
芭蕉
西行のねこ

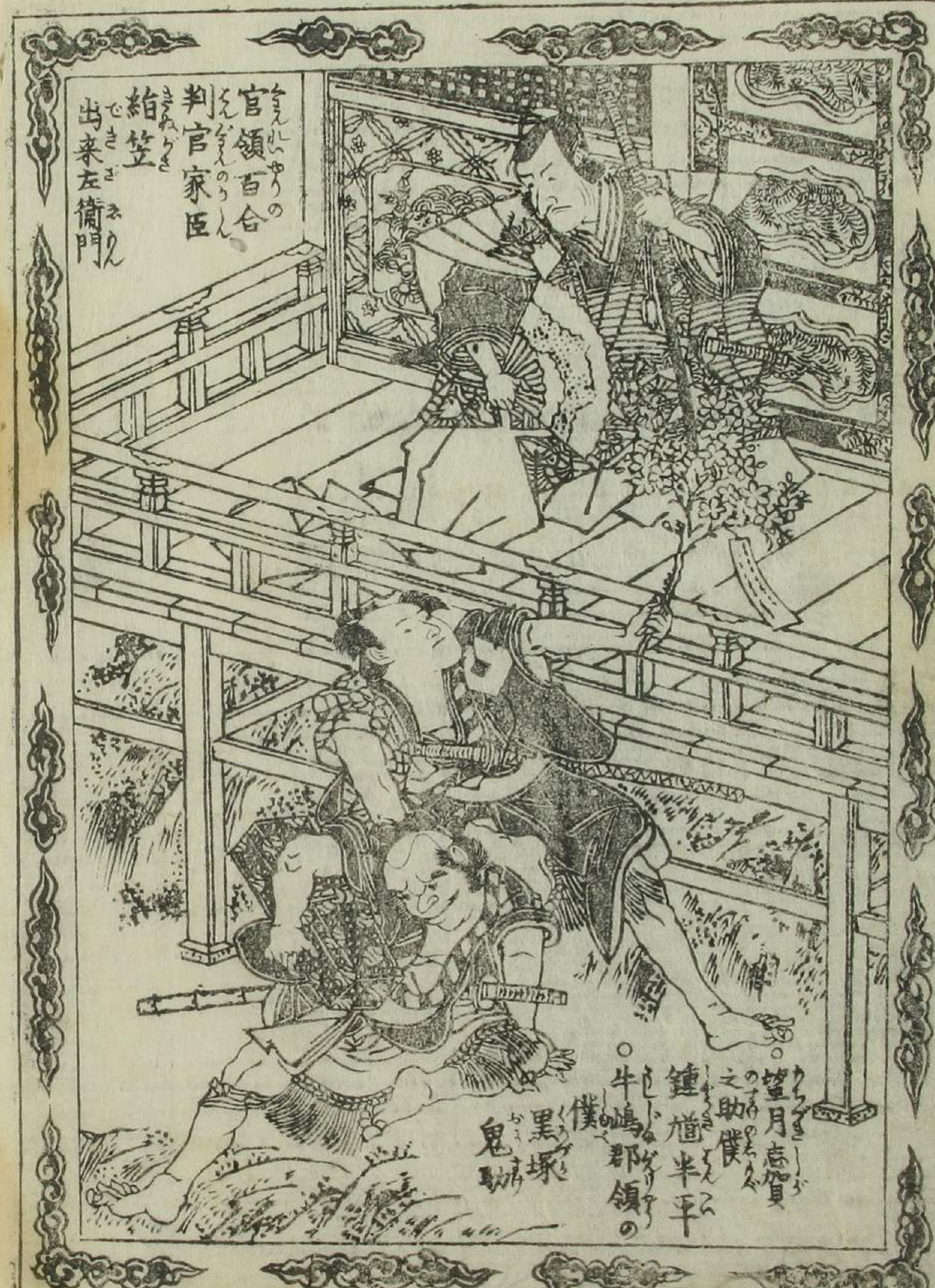
紫の戸の
怨霊
六趣の
報應水月の
如く江河滔水
脱さく事なし
嫉妬の業火思ど焦
現身已る蟒身と受
鶴見
太郎
政忠
甲賀の
家臣

北岩倉の
地獄坊怪玄
何事ぞ
花見
人出
去来
横笛姫
袖垣
支考

ほつたん　今は昔足利義詮朝臣の時代
貞治のころとかや近江のくにの三井寺にねずみの
あやしきわざ行法ふしぎのきこえありてしんぎよさうて
あくまのねがひ甲賀山に入定をとげんとせしが年
月をへてさるとき　ひとつの…
らつかとききくるところへもやしつくにしるしをさだめして
あまがしのぶりしとてそのなかのゆかり…
○そのところはつるのたかの山ごとにまゐりて…
とらのよかりけどやかる内かのふるともいふ…
甲賀山にわけ入てかのとうにまゐりけるにそのの
おそれねずみをかうかれぞれいもちてまへをとねとめんと
かまれ矢をつがへてねらひけるに此ねずみは山ふかく
みけかれぬるわざをいろさんにかくてぞおひかれぬるに
かのわきまへのぶりのへんにてきへうせたんだ…
わらみぎりこそぞんねんきれとこぞとおもひぞつて…
とりしものまさかのぶりあまうりれいどりしてきちすまち
つらのうちさらしとりれ一つの石櫃かくされてそのうちに
ねずみのかおそりかくらのかのえりなくおそるるごとく死毛
おひのびられまのでもくれ出せおもろへ消れきさるかの
くちそやぶれちぎれされどもまうくるにさてもしてなに
ちるもくとのちうなとうちてねよりかるかえにまいれさる
あまくてこへいわく「何ア三井」やくやくもえくはれうんぢれ…
つきことあるにようきにねずみもそれのがへーそちんちやにてよ
つりよでさうりわれわれ西寺のねずみやしやうといふ
かのかりむかし　康保のころ白川のゐんちよくにて
さがのいのちもいさぎよしありて餓死をとげし　ゐん…
山門のきやうをまうしさんをくるひし　三井寺のちからが
めぐりのおのれをまもりさうるねずみの…ゐの…

▲われもまたこれ…らいがうの行法をさづかりて杵べんふしぎの法力ありやまのの人
われをねずみのおもかりくまんぎやうぜしが
さんゆらのいのりのひぎよきいはゆのの
いのりをとげのまれ一寺をこんをうあるべき
せくそくにていのりをさうし…のりの…
あるることのやくそくのことく一ちとこんざう
あるくそとらろうのそくれいのりのなんぢみようのおそれと
南無の甲賀こらうの主人がさるさけをとりつてけゆの
すとへんにりゆうへ…これまでをいふくこのくきあるる
ちのよもにとものそに山中にこへ…ちかれども
わがあいかうぢやうのてあのておかまんとあへよりけん
えんあまそうりけるうちに甲賀こらうあきまが
ゆみよこらうまへのかもわが十ねんとうけさうしが
われらのひのびよろうやうのひれいふるにんまうされ
ぞうすまうちあんまかのめくれんをおもしー
あうじやうすべきかうくおうなれどもすでに
あうしやうのちくくいさうのかれがでろのうくこの
士中にくろあらかれされどもとりくまかちがさ
かんのうのこれかむしよれあくりくぶんちらされ
どもちんあくへくなれしてそでてくのぞくし
うんぢがをとしやうとうさるかうふうんぢかれて
すぐら山のぞくしてふかくして死が一子まう
ちんねんにへいのかのかげりちよと…
甲賀さらふうんぢが八丈をもうがし
されをうんぢがよりもうへりのなかんと甲賀
こんわかさんぞんうちよりて此れうんぢに
こんがうあらかりのれの跡よう

つぎへつゞく



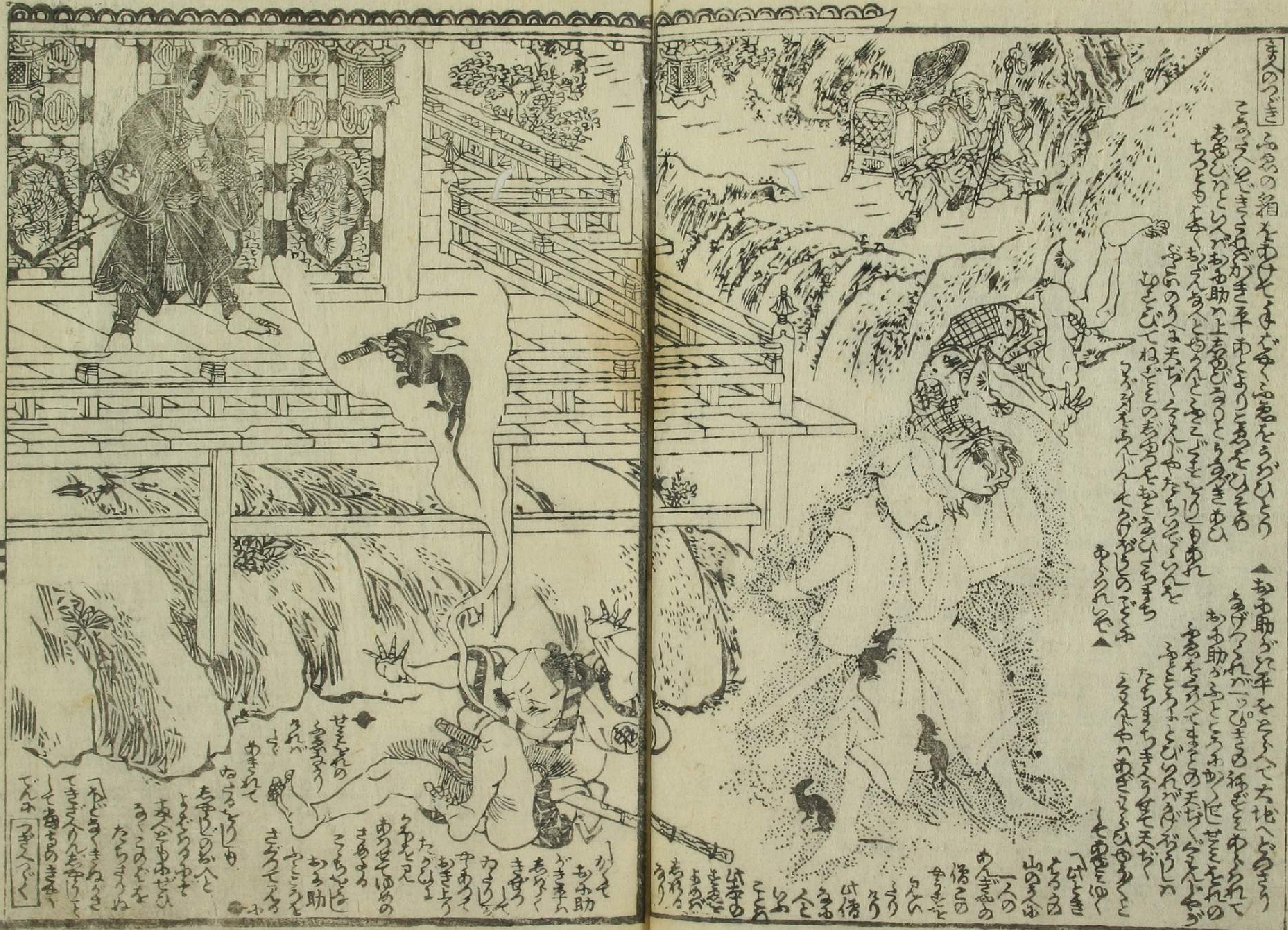
雨鉦塚

絹

まえのつゞき

三人のつぎき
かんかそ

助



まへのつゞき

ふゐの箱をあけてまだ年くふ君をうかひとり
こよの丈へ見ぐきうれがき平わよりとあそとひそゐ
あきひれとらへがお市助へ上あぐひゐりとうすぎあひ
ちうとも天ちぐえんかくとかぐこつくをとりじゆあれ
ふとのうへ天ちくえんやたちうくえんを
ひとびてねずミのおよつをもとるひすちまち
うぶ町をふえん／＼と名げおとしのぶくわ
あへうれいそ▲

▲お市助ハ平をとらへて大地へなげきり
なげつけれバ一ッぴきの鼠をゆへられて
お市助がふところへかくれ出せしそれの
鼠たちいへてまことの天ちくえんやが
ふところふとびられバなげおとしの
たちまちきえうせて天ちく
えんやハおどろきてひまくと
しておゐをゆく

一ッばとき
ちるの
山のおくに
一人の
めんぎやの
侍この
よみきを
ゆへ
ぐり
より
此侍
みる
ひとと
たふ
こと
此年の
また
よみ
あふ
なり

かくて
お市助
ぶき平ハ
ありく
きせつ
しそ
わよりし
やあつて
おき上り
たがひに
名をと見
あうせてゆめの
さめたる
こゝちやせし
お市助
ふところを
さぐつてみれ
ば

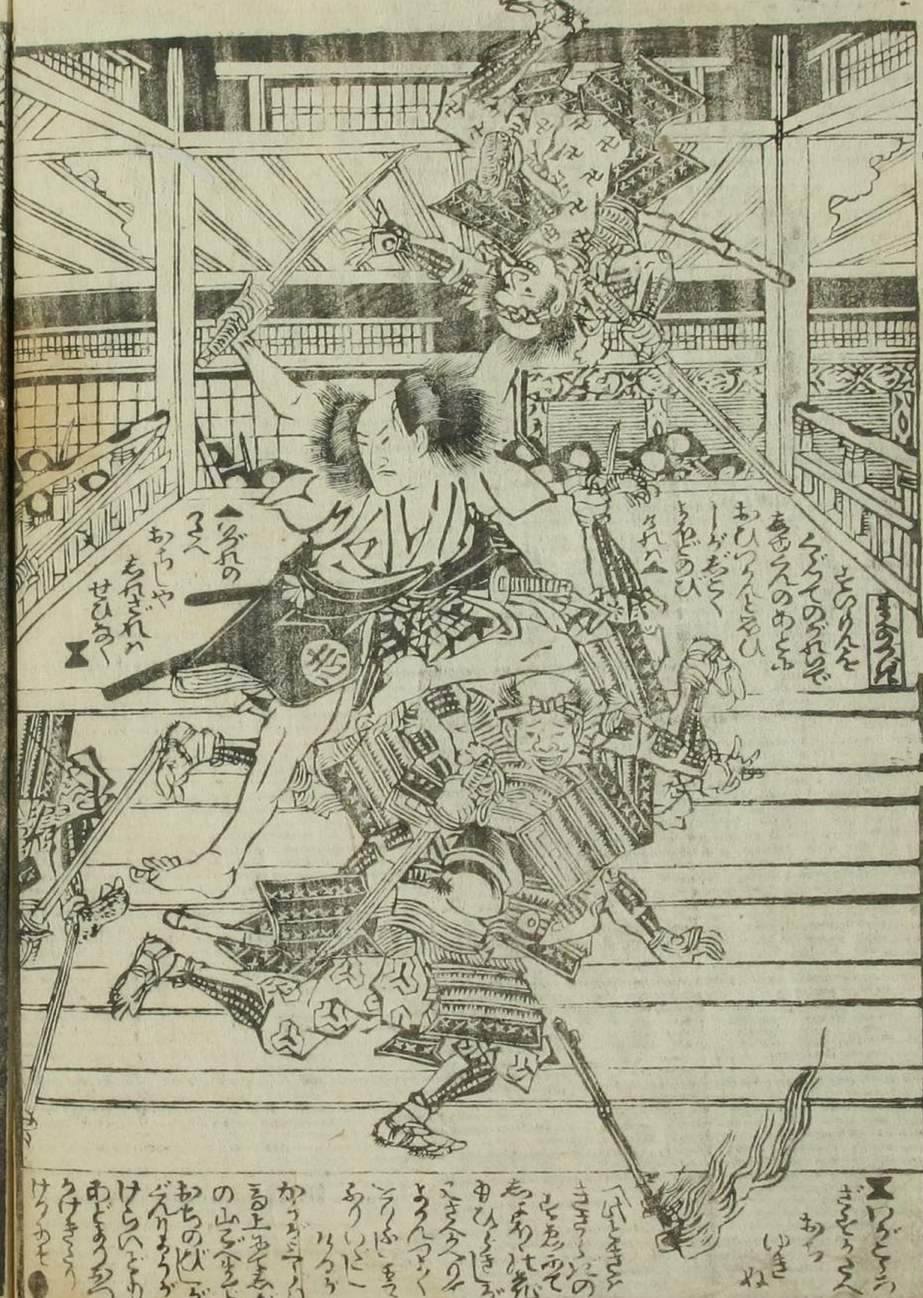
◆せきとれの
ふしぎより
見れバ
よく
あまされて
ねずミをとりしゆ
あるじのお人と
よくおりかで
あへひをかはせひ
このみをを
たちまちゐね

一ツおどろくまきねの
てきまくのいゑかけと
して竒ちのきはへ
ぞんず

つぎへつゞく

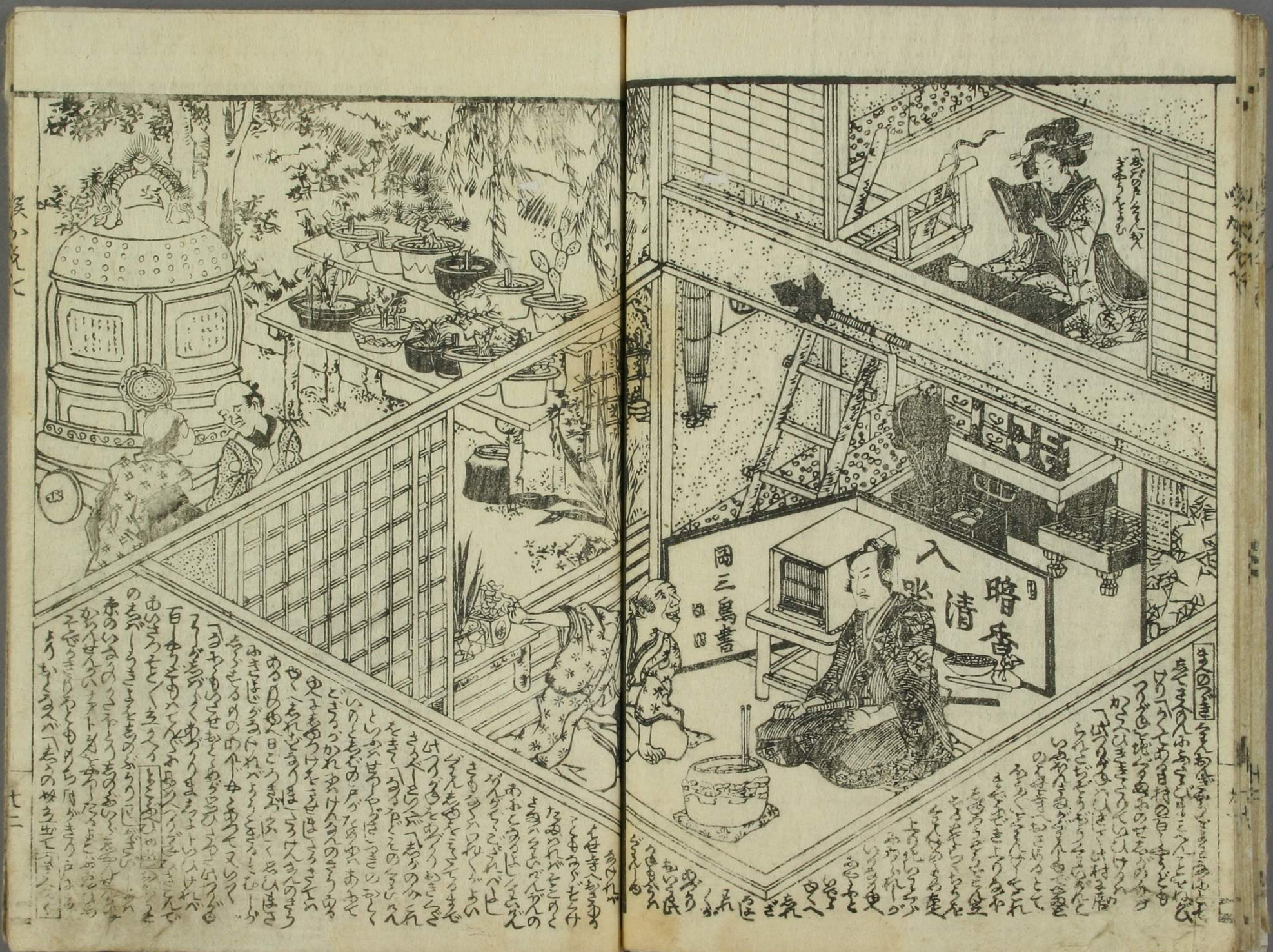
瀧口横笛後編上冊

弘川
国貞画
山東京傳作



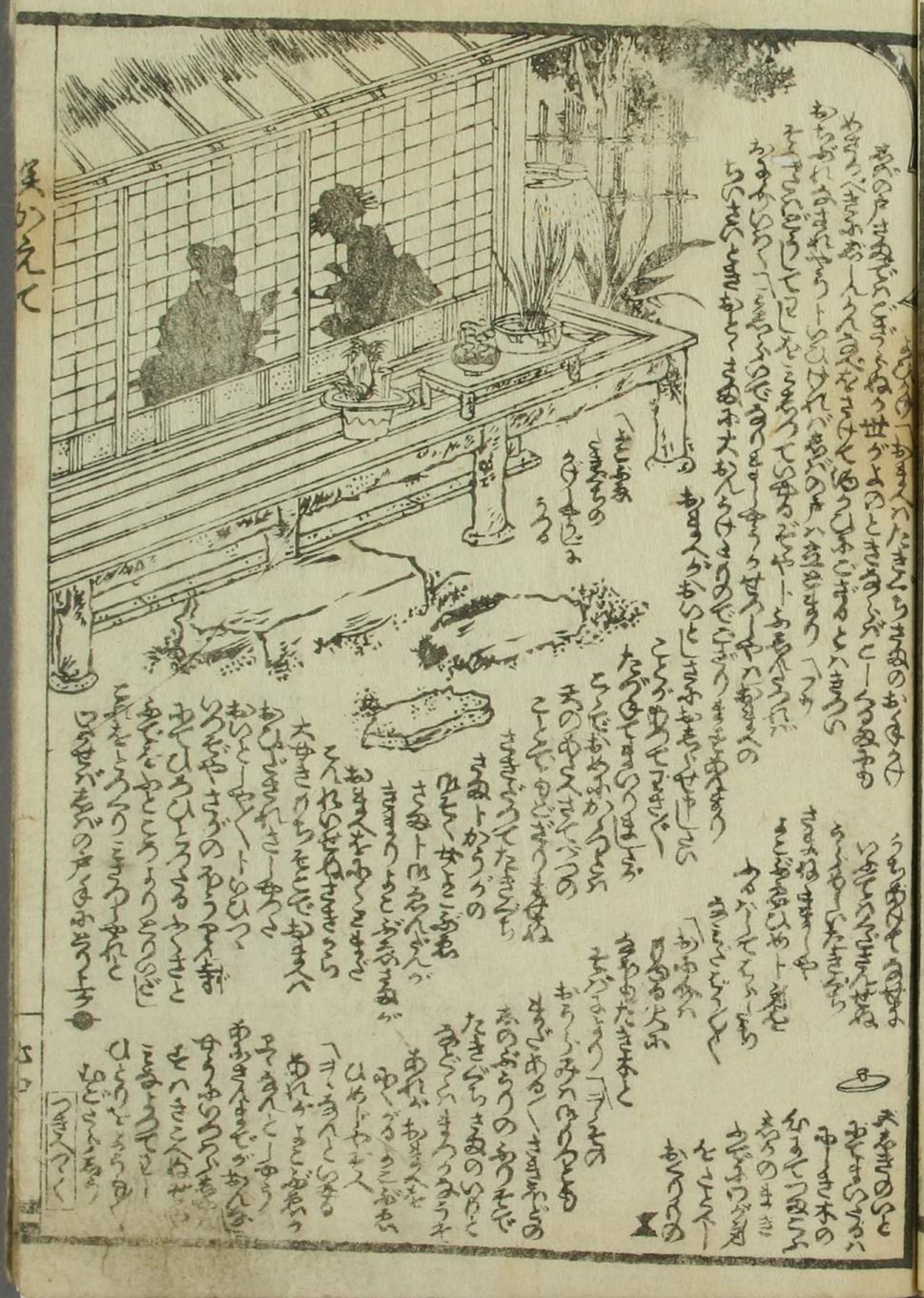
佛飯
錢

怪
地蔵堂
鐘愛
歌麿


暗香清入
岡三島書

美のつぎき

美のつぎき



地蔵坊怪去

法堂

雨鉦塚
文化七年十月
後編草稿成

全部六　冊大尾

山東京傳作

筆耕 石原知重

京傳店口上

きせるくわんとと入　まれ地油紙ちん形原く

京傳自画さん

あやぎぬと紙ちんぎくちりませ強のこいちぐ

讀書丸

一つぶ　五匁

大極上品きせる丸　大ごく上の

京山てんく

文化八辛巳歳　春目録

瀧口左衛門横笛姫	全六冊	山東京傳著	歌川國貞画
咲替花の三乗目	全六冊	山東京傳著	歌川國貞画
善惡両道染和解手綱	全六冊	山東京山著	歌川國貞画
南無阿弥陀仏唱え歌念猫物語	全六冊	東里山人作	勝川春扇画
滑稽奇談尾犬忡	全三冊	竹塚東子作	北川義丸画
阿膝茶番口切のせり歌	全三冊	東里山人作	勝川春扇画
繪入讀本 田舎通言驛路立鈴	全小冊一部	東里山人著	勝川春扇画

冊数よりあるもの
新板お近く出板仕る
ものもえらん
ちんもの
二十めん
岩戸屋喜三郎